

選考理由

賞	作品名	氏名	選考理由
大賞	つき かわ 月の河	はづき えい 葉月 詠	全体に表現力の確かな印象がある。 突飛な発想などに頼らず、自身の内面とじっくり向き合い、感情の推移を追っている一連として、安定した流れを思わせる。 学校内の現代風の光景がうまく織り混ぜられ、淡々とした叙述のなかにも、いまを生きる姿勢がよく窺える作品である。
次席	かいろ 回路	わかぐさ 若草 のみち	言葉遣いに荒さや、幼さはあるが「モンシロチョウ」「吊り革」の歌のように、身辺の小さなところを掴み取り、一首にまとめる力量の高さが感じられる。 表現力があり、短歌として詠むための言葉の選び方が今日的であり、若い感覚を持った期待のもてる作者である。
次席	けいこく 溪谷	まつき よたか 松木 夜鷹	さりげない日常を掬い上げた今日的歌が多いが、発想は奇抜で個性的でもあり、言葉の選び方の気が利いている。 若者独自の物の見方や動きが窺えるとともに、読み手を飽きさせない上手さがある。 ただ、50首にした時に、後半までその力を出し尽くせていない事が惜しまれる。
次席	へいめんせかい 平面世界	につた えい 新田 瑛	平行線、平面などの用語を用いて、他者との関係における若者の内面の鬱屈を短歌の中に映し出している。 言葉の荒さが感じられる反面、表現力があり、言葉を歌にまとめる手法を手に入れている作者である。
佳作	あお ぼしお 青葉潮	あいざわ ゆきこ 相澤 由紀子	全体的に健やかな歌い方であり、労働の現場の歌も伸び伸びしている。 生活感もあり、あまり技巧に走っていない点が評価できる。
佳作	せいかつ 生活	しょうらく ち さき 正樂地 咲	タイトルに難があるが、何気ない日常における素材の見方、捉え方に面白味が感じられる。
佳作	さくら ぶね 桜舟	なかはた ともえ 中畑 智江	思いテーマを取り上げつつも、ほんのりした雰囲気漂浮せ、全体に安定した一連に仕立て上げている。
佳作	よる 夜はこれから	こんどう 近藤 かすみ	全体的に大人しく、女性的な感覚の内面的な歌が多い。 新しい歌い方ではないが、歌に馴染んでいる作者が窺えて好ましい。